

「特別の教育課程」による日本語指導 ～ 鈴鹿市の取組 ～

鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課

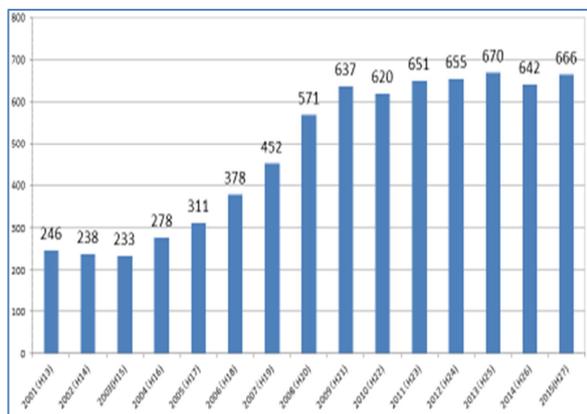
日本語教育コーディネーター

中川 智子

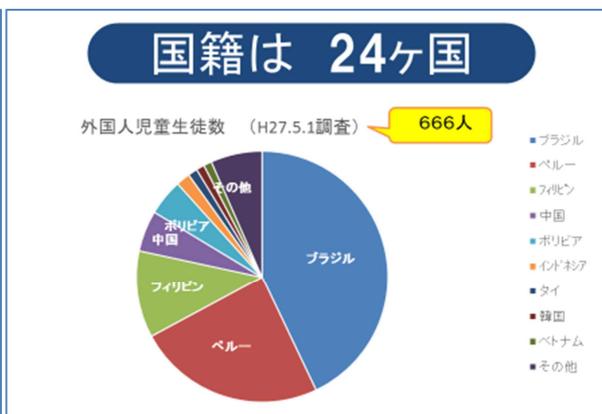
1 鈴鹿市について

三重県鈴鹿市は人口約 20 万人の自動車関連製造業で発展してきた地域である。以前よりブラジルやペルーの日系人が多く暮らしているが、最近ではフィリピンや中国などアジア圏からの編入も増えてきており、多様な国の人々が共に暮らす外国人集住都市の1つとなっている。近年では、外国人登録者数は減少傾向にあるものの、在住している外国人の滞在は長期化・定住化・多国籍化の傾向がみられ、多文化共生の推進は市の重要な取組に位置づけられている。

在住外国人の滞在の長期化・定住化に伴い、鈴鹿市の公立小中学校に通う外国人児童生徒等も増加し、平成 27 年 5 月現在 666 人となった。年間を通して海外からの編入や転出入も多く、子どもたちの入れ替わりは激しい。子どもたちは市内に広く分散して在籍しており、JSL 児童生徒が在籍する学校には国際教室の設置や教員の配置、支援員の派遣をするなどして適応支援や日本語指導に取り組んでいる。



公立小中学校に在籍する外国人児童生徒の推移 (H27.5 調査)



外国人児童生徒の国籍別割合

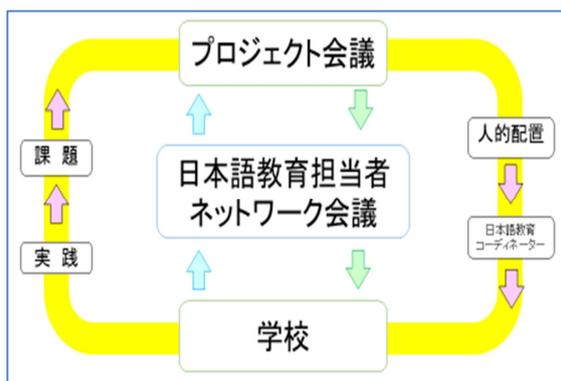
2 鈴鹿市の「特別の教育課程」による日本語指導の実施について

鈴鹿市では平成 20 年度から日本語教育支援システムの構築を行ってきた。平成 26 年度から「特別の教育課程」による日本語指導に取り組み、個別の指導計画に基づく教育実践と学習評価を実施している。

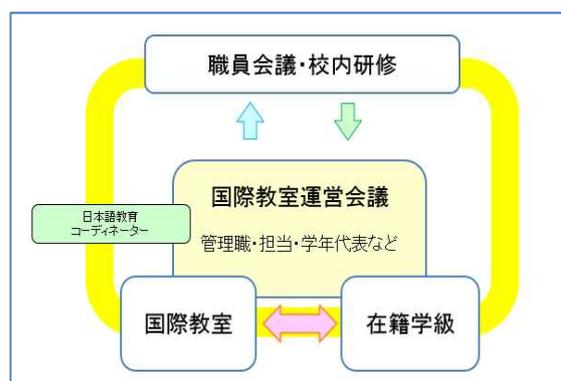
■推進体制

推進体制づくりのためプロジェクト会議を設置し、年2回日本語教育に関する基本方針の決定や進捗状況の検証を行っている。市全体で取り組んでいくために日本語教育コーディネーターを中心とした担当者のネットワークをつくり、日本語教育の実践研究を行っている。また、JSLバンドスケールを活用したJSL児童生徒一人ひとりの日本語能力把握など、教育委員会と学校がつながるシステムをつくりながら取り組んでいる。

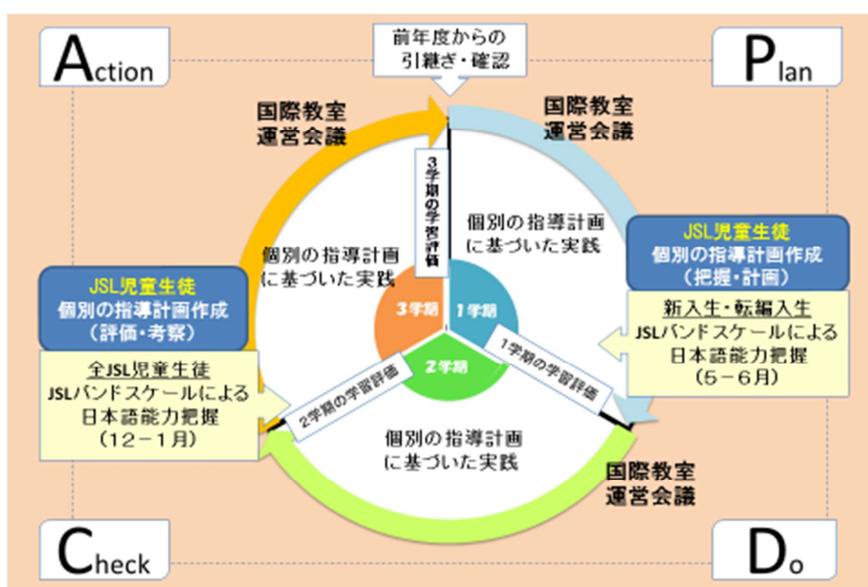
- ・全市的な取組（プロジェクト会議，ネットワーク会議）
- ・校内での推進体制（国際教室運営会議）
- ・研修会の開催（JSLカリキュラム研修会，実践発表・交流）
- ・外国人児童生徒等の日本語能力，学力等の実態把握
- ・発達段階，日本語能力を配慮した日本語指導，小集団での日本語指導



鈴鹿市の日本語教育支援システム



国際教室設置校の校内体制



個別の指導計画を活用した実践

■人的配置

- ・日本語教育コーディネーター・・・教育委員会事務局に配置
- ・初期指導，日本語指導・・・教員免許をもった人材
- ・初期支援，適応支援・・・母語のわかる支援員

■日本語能力把握

- ・JSL バンドスケールやDLA を活用した日本語能力把握
- ・JSL 児童生徒の日本語能力に基づく日本語指導体制づくり

■連携

- ・市内のネットワークづくり（日本語教育担当者，外国人教育指導助手，日本語指導講師）
- ・校内での連携（国際教室運営会議，JSL バンドスケール判定会議）

■JSL 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり

- ・取り出しによる日本語指導の実践
日本語で学習活動に参加する力を育てるための授業づくり
- ・在籍学級での実践
JSL 児童生徒にもわかりやすい授業づくり

3 JSL 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり

子どもたちの日本語習得の状況によって授業形態や教材は様々であるが，日本語で学習活動に参加する力を育てることを意識しながら実践を進めている。市内の日本語教育担当者が作成した教材やワークシートはできるかぎり共有できるようにし，国際教室の授業公開を通して学びあいながら，どの学校でも一定の日本語指導が行えるよう研修を深めてきた。多様な子どもたちへ対応していけるよう，国際教室や在籍学級で工夫しながら日本語指導を行っている。

○取り出しによる日本語指導の実践

「話す」「聞く」「読む」「書く」の4領域がバランスよく授業に組み込まれるようにし，特に「読む」「書く」については，意識して学習活動の中に取り入れている。小学校で国語の教材を扱うときは，児童の日本語能力に合わせて，全文リライト，要約リライトを使い分けて指導にあたっている学校もある。リライト教材を使用することで音読がしやすく，「文章の意味が理解しやすい」，「書かれている内容の読み取りや文章構成の理解が進む」など，JSL 児童の学習の大きな助けとなっている。

また，小学校においてもキャリア教育の視点を取り入れた教材作成を行い，より幅広い進路選択にむけて，小学校低学年段階から取り組みを進めている。

天気を予想する（小学校：5年）

- ①理科や算数で学習した資料を読み取ろう
- ②「天気を予想する」を読み、説明の工夫を知ろう
- ③資料を読み取り、自分の考えをもとう
- ④自分の考えたことを友達に伝えよう

国語の教材と理科や算数の学習を関連させ、資料を読み取る活動を行う。在籍学級での学びにもつなげながら、資料からわかることは何か、自分かどう考えるかを話し合う。自分の考えを人に「伝える」ことを意識し、発表の機会を通して考える。

夢に向かって（小学校：全学年）

- ①自分のルーツを知ろう・みんなの願いを知ろう
- ②夢を叶えた先輩の話を知ろう
- ③得意なことや好きなこと
- ④大学見学に行こう・お礼の手紙を書こう
- ⑤国際集会での発表

身近にいる外国の方や留学生から思いや願いを聞き、目標をもって学習することについて考える活動。日本語を使って活動しながら子どもたちが「自分の夢」や「今ががんばっていること」について深め、将来や今について考え、発表する。

お店のしごととわたしたちの暮らし（小学校：3年）

- ①スーパーへ見学に行こう（在籍学級）
- ②買い物をしよう・ピザを作ろう（国際教室）
- ③お買い物調べをしよう（在籍学級）
- ④もう一度スーパーへ見学に行こう（在籍学級）
- ⑤外国の商品を売る店を見学しよう（国際教室）
- ⑥スーパーとの違いについて考えよう（国際教室）
- ⑦まとめよう（国際教室）

在籍学級と国際教室の授業を関わらせた活動。在籍学級で社会の学習を進めながら、国際教室では買い物や調理などの体験活動も行う。また子どもたちがよく利用する外国の商品を扱うお店も見学し、お店の工夫や利用する人の思いなどにふれる。

中学校の国際教室でも小集団による日本語指導を行う学校が増えてきている。JSL生徒にとって中学校の教科学習を理解していくのは簡単なことではないが、友だちとともに学びあうことで刺激を受け頑張っている子も多い。高校進学を見据えて先行学習や復習、教科の補充を行いながら教科学習に取り組んだり、キャリア教育を意識した日本語の活動を行ったりしながら、JSL生徒に必要な日本語の力を育てていくための日本語指導を試行錯誤している。

天気と変化（中学校）

- ①生徒に関係のある国の天気について
- ②日本の天気図について
- ③天気・風向・風力
- ④気象通報を聞こう
- ⑤まとめよう

在籍学級の授業と国際教室の授業を関わらせた活動。在籍学級の授業に参加できるよう、子どもの日本語習得状況や教科学習に必要な力を把握し、国際教室で日本語指導を行う。

自分のことを知る・伝える（中学校）

- ①日本語での面接
- ②質問を理解する
- ③自分のことを考えよう
- ④友だちのことを知ろう
- ⑤ペアで話そう
- ⑥模擬面接

日本での進路選択に向けたキャリア学習。面接に必要な言葉を学ぶとともに、面接練習に取り組む過程で、自分と向き合ったり仲間と関わったりして、将来や今何をすべきかを具体的に考えることを目指した活動。

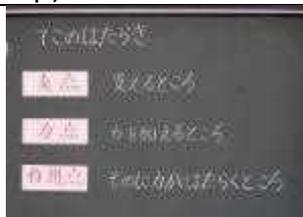
○在籍学級での実践

在籍学級では「国際教室で身につけた日本語の力を発揮する場面を意識して設ける」、「授業に見通しが持てるように授業スタイルを工夫する」といった取り組みも進めている。在籍学級でも自信をもって学習に参加していくために、国際教室と在籍学級の連携は大切な視点である。

理科「てこのはたらき」（小学校：6年）

指導上の工夫・留意点

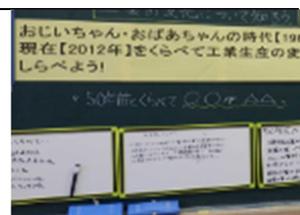
- ・具体物を使って説明する。
- ・キーワードを提示する。
- ・実験を通して予想する。
- ・ワークシートを活用する。



社会「工業生産とわたしたちの暮らし」（小学校：5年）

指導上の工夫・留意点

- ・他の教科学習と関連付ける。
- ・身近なことや経験とつなげる。
- ・イラスト入りの資料を準備する。
- ・モデル文を提示する。



○JSL 児童生徒の在籍が少ない学校での実践

日本語指導講師（非常勤）による取り出し指導においても、市内で共有しているリライト教材、ワークシート等を活用している。子どもの日本語能力に応じて体験的活動を取り入れ、具体物・絵等を使いながら学習を進めているが、取り出しによる日本語指導の時間が限られているため、日本語指導講師と担任が日々の学習の取組や子どもの様子などを互いに連絡し合えるような関係づくりを大切に考えている。子どもの教科指導や支援方法について互いに話し合う場を大切にすることで、JSL 児童生徒をより一層多角的にみて指導することができるようになった。体制づくりを支援していくため、日本語教育コーディネーターも定期的に関わりながら情報共有や研修を行っている。

4 「特別の教育課程」による日本語指導の成果と課題

《成果》

■推進体制

- 全市的な実施にあたっては、循環型の日本語教育支援システムが定着していたことで「特別の教育課程」による日本語指導がスムーズに導入・実施できた。
- 管理職を中心とした国際教室運営会議を設置することで校内の体制づくりが進み、個別の指導計画を活用したP D C Aサイクルでの日本語指導実践が進んでいる。
- 日本語指導の学習評価の観点を示し、各学校の実状に合わせて取り出しによる日本語指導の学習評価を行った。

■人的配置

- 日本語教育コーディネーターの配置により、体制づくりと実践研究を進めることができた。
- 日本語指導が必要な外国人児童生徒等が在籍する学校に、教員免許を有する教員を配置し、取り出しによる日本語指導を行うことができた。（国際化対応加配教員、国県の補助事業を活用して非常勤講師を配置）

■日本語能力把握

- JSL バンドスケールやDLA を活用し協働で日本語能力を把握することができた。
- 把握した日本語能力をもとに指導時間や指導内容等を協議し、個別の指導計画に基づく教育実践と学習評価を実施することができた。

■連携

- 授業公開を通して、「特別の教育課程」による日本語指導の実践や教材を共有し

各校での授業づくりに活かすことができた。

- 個人票（児童生徒に関する記録）と個別の指導計画（指導に関する記録）を作成し、会議等を活用して共有することができた。目標や手立てなどを評価し考察することで、次の指導や支援に活かしている。

■JSL 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり

- 子どもたちの実情に合わせて多様な活動が行われるようになり、いきいきと日本語を使って学ぶ姿がみられる。
- 在籍学級と国際教室が連携することで、取り出し授業の中で学んだことが在籍学級の授業で発揮でき、友だちに認められることで学習へのモチベーションや自己肯定感につながっている。
- 日本語の力や教科の力に留意して指導や支援の工夫が行われることで、子どもたちの学習意欲が向上している。

《課題》

■推進体制

- △小中学校での系統的な日本語指導体制づくり
- △指導者の資質向上に向けた実践的な研修の推進

■人的配置

- △個に応じた指導や支援をするための人的配置
- △急な転編入への対応
- △母語のわかる人材の確保

■日本語能力把握

- △日本語能力把握や協議のための時間確保

■連携

- △個別の指導計画を活用した教育実践の充実
- △小学校と中学校の連携
- △日本語指導体制づくりにおける校内の協力

■JSL 児童生徒が主体的に学ぶ授業づくり

- △多様な子どもに対応する日本語指導の実践の蓄積
- △在籍学級での言葉に留意した授業づくり
- △中学校段階の日本語指導の実践研究

個別の指導計画(小中学校版)

平成27年度

年 組	児童生徒名		作成者	
-----	-------	--	-----	--

●JSLバンドスケールによる日本語能力判定

判定日	聞く	話す	読む	書く
月 日				
月 日				

●日本語指導の状況

指導時間	指導形態

●本人や保護者の願い

--

	児童生徒の様子 困り感やニーズの把握	目標 具体的な指導・支援の手立て	手立ての評価・考察
日本語・ 教科学習面		目標	
生活面		目標	

●連携した関係機関（あれば、○で囲んでください。）

スクールカウンセラー

アクアレラ教室

子ども家庭支援課

児童相談所

その他（

）

【別紙1】 「特別の教育課程」による日本語指導の学習評価について

観点	評価規準	活動	評価例
関心 意欲 態度	1 自己の生活に関心を持ち、生活の中で日本語を使おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 作文 日記 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語でのあいさつにも慣れ、元気にあいさつしている。 わからない日本語は、積極的に質問して理解しようとしている。
	2 周りの人と日本語で関わり合おうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 手紙 1分間スピーチ 文集作り 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ日本語を使って、友だちとやりとりをする様子が見られるようになってきた。
	3 考えたことを日本語で伝えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 読書郵便 感想文 学習発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 単語を並べながら、考えたことを伝えようとしていた。 考えたことを、友だちにわかりやすく伝えようとしていた。
日本語 による 思考 判断 表現 の能力	1 体験から感じ取ったことを表現している。	<ul style="list-style-type: none"> 文章や資料の読み取り インタビュー アンケートをとる 劇づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの発表を聞いて思ったことを、学んだ日本語で伝えることができた。 読書郵便では、好きな本の「面白かったところ」や「びっくりしたところ」など伝えたいことを日本語で書くことができた。
	2 事実を理解し伝達している。	<ul style="list-style-type: none"> 詩の創作 実験 テレビ番組づくり ビデオレターづくり イベントの企画 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと名刺交換をして、自分の好きなものを伝えることができた。 1分間スピーチの活動では、問いかげの言葉を使って、友だちに質問しやりとりができるようになってきた。
	3 概念・意図などを解釈し、説明したり活用したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 自由研究 集会での発表 作品づくり 観察ノート 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇を読んで、主人公の様子を読み取ることができた。 学習発表会で、〇〇について調べたことや考えたことを説明することができた。
	4 情報を収集・分析・評価し、論述している。	<ul style="list-style-type: none"> 新聞づくり レポート 報告書作成 討論 ディベート 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇集会での発表に向けて、質問したいことを考え、アンケート用紙を作ることができた。 〇〇についての学習を通して、地域の人へインタビューし、意見をまとめてまとめることができた。
	5 課題について、構想を立て実践し、評価・改善している。	<p style="text-align: center;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと相談して、〇〇についての紹介ビデオのシナリオを考えることができた。
	6 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させている。		<ul style="list-style-type: none"> 〇〇コンテストの共同制作をとおして、考えたアイデアを説明し、みんなで考え合うことができた。
知識 理解 技能	1 言語やその運用について身に付けるとともに、文化に親しんでいる。		<ul style="list-style-type: none"> 教室で使われるやりとりの言葉を理解し、教室で使うことができるようになってきた。 教材の中で出てきた漢字を読んで理解し、内容を読み取ることができた。